

【学校教育目標】 知識を活かして互いに学び、自ら未来に挑戦する縁っ子の育成

「知識を活かして」:情報を収集・整理・表現・発信するための理解 「互いに学び」:自分の考えを形成し表現したり互いの考えを伝え合い合意形成したりする力 「自らの未来に挑戦する」:自ら生活や学習状況を見つめ、解決に向けて試行錯誤しながら学ぼうとする態度

【知識・技能】

強みと弱み	令和6年度 育成を目指す資質・能力	重点目標	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	取組状況の評価	達成状況の評価	検証結果（自己評価）		学校関係者評価
									取組結果	今後の改善策	
○基礎学力がある ○学習意欲が旺盛 ○家庭の協力がある ●学びの姿勢に個人差 ●体力の低迷	【タブレット端末による表現力の向上】 表現力の向上及びICT基本操作の習得得	学校	・ロイロノート、Keynote等のアプリの活用アンケートで「タブレット端末を使って、友だちやクラス、全校に対して自分の考えを伝えることができましたか？」の質問に対して「できる」と回答した児童の平均割合を全体比70%以上にする。 平均割合が91%、達成度が130%となることから、評価は「S」	iPadアプリの指導・活用	・学級・教科担任は、1学期に1単元以上、タブレット端末による4つの指標を基にした『表現方法』を用いた授業を実施する。	A	S	・教職員アンケートで肯定的な回答は93%であるので、評価は「A」である。 ・児童アンケートで肯定的な回答が91%であり、評価は「A」である。	タブレット端末による『表現方法』を用いた授業に必要な指標をまとめた一覧表を引き続き活用。 iPad活用した授業やその資料を夕会時に短時間で共有し授業改善に繋げることの継続。	・表現力の向上のための具体的な取り組みが多くなされ結果に結びついている。 ・デジタルとアナログのバランスも必要。 ・評価については学校評価の通り。	
○思考力・判断力・表現力等	家庭	iPadの適切な使い方の指導（見守り）	・保護者は、iPadを持ち帰った際に、不適切な使い方をしていないか必ず確認をする。 ※学期に1回は、学年通信でiPadの使い方について各学年ごとに連絡を行う。	A	・保護者アンケートでは、肯定的な意見が92%あり、評価は「A」である。	一部不適切な取り扱いも散見されるため一層の家庭との連携が必要。					

【思考力・判断力・表現力等】

強みと弱み	重点目標	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	取組状況の評価	達成状況の評価	検証結果（自己評価）		学校関係者評価
								取組結果	今後の改善策	
○思考力がある ●表現が苦手 ●合意形成ができない ●応用ができない	【自ら考え方を交流し合意形成する力の育成】 互いに学び合う力の育成	学校	・生徒指導の3機能」を活かした授業の実践	・学級担任は、国語、算数、理科において、「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を学習過程に応じて設定した授業」を実施時数の60%以上実施する。	S	S	・教職員のセルフチェックでは、513%の達成率であり、評価は「S」である。	実践の中で有効であった「意見を交流し、共感的人間関係を育む」手立てについて、学習過程ごとに整理した一覧表を活用。授業のどの過程で、どのような手立てで共感的人間関係を育むかを明確化している。	・家庭でのSNS利用について情報リテラシー（情報を取り扱う上での理解という意味）を伝えていく必要がある。 ・評価については学校評価の通り。	
○やり抜く力がある ○助け合える ○明るく優しい ○素直 ○真面目・几帳面 ●自主・自律の欠如 ●自己肯定感が低い ●将来の夢がない ●地域行事に参加していない	家庭	自主的な家庭学習習慣の育成	・保護者は、家庭学習の手引きを使って子どもと一緒に目標を立て、学期ごとに振り返りをする。	B	A	・校内研修において、2学期は、「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を学習過程に応じて設定した授業づくり」について校内研修（学期に2回以上）で支援方法を検討する。	・保護者アンケートの肯定的回答は、42%だったので、評価は「C」である。 ・児童アンケートは64%であるので、評価は「B」である。	家庭での生活のリズムの確立についてSNS利用も含めて小中で連携した取り組みをしていく。	放課後学習の実施については十分な状況である。引き続き定着させていく。	
	地域	定期的な学習支援の実施	・月に1回以上の放課後学習教室を、3・4年生を対象に実施する。	S			・9月、10月、11月の3ヵ月間で、4年放課後学習教室を7回実施した。実施率は、175%となり、評価は、「S」である。 ・3年生については、4カ月で4回実施した。実施率は、100%で評価は「S」である。			

【学びに向かう力、人間性等】

強みと弱み	重点目標	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	取組状況の評価	達成状況の評価	検証結果（自己評価）		学校関係者評価
								取組結果	今後の改善策	
○やり抜く力がある ○助け合える ○明るく優しい ○素直 ○真面目・几帳面 ●自主・自律の欠如 ●自己肯定感が低い ●将来の夢がない ●地域行事に参加していない	【自己の状況を把握して行動する力の育成】 自立性の醸成	学校	・生活ルールアンケートで「3つの名人になるために自分が立てた目標を毎日実行できた。」と回答した児童の割合を全体比70%以上にする。 割合が88%、達成度が125%となるが、教師から見ると課題が見られるため、評価は「A」	児童の意識づけ及び自己評価の実施	・学級担任は、3つの名人になるための目標を自己決定させ、その取り組みについての意欲付けや声かけ、振り返りを1日1回以上行う。	A	A	・教職員セルフチェックで91%が実施したとしているので、評価は「A」である。	「自分で立てた目標」の振り返りについて、徹底できない学級もあった。単に生活目標を守るためではなく、自立性を高める取組であることを再確認し、効果的な振り返り方法を検討する。	・アンケート結果と実態の検証も必要である。 ・評価については学校評価の通り。
	家庭				・保護者は、1日1回は、あいさつやあたたかい言葉かけ等を行う。	A		・児童アンケートの肯定的回答は87%、保護者アンケートは96%であるので、評価は「A」である。		
	地域				・子どもに出会った時は、あいさつやあたたかい言葉かけ等を行う。	A		・アンケート結果の84%の子どもたちが、地域の方からよく声掛けをしていた大いに答えてるので評価は「A」である。		